

R8 すいか 台風・炭疽病等に注意!

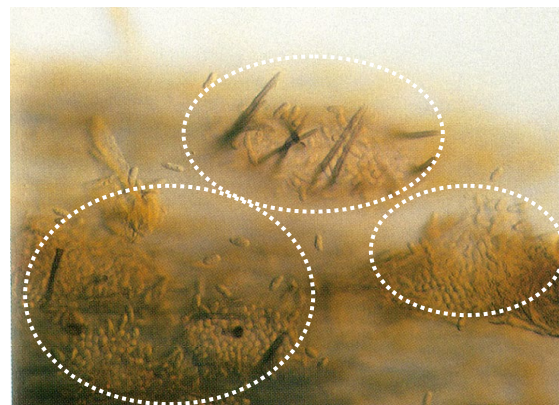
令和8年5月31日
JAのと、すいか部会

1 台風6号発生、炭疽病の発病リスク高まる

- (1) 6月3日から4日にかけて、台風6号は日本の南から東へ進み、西日本では6月3日頃にかけて、大荒れや大しけ、警報級の大雨となる所もあるおそれ。
- (2) これまでの降雨（葉濡れ時間）により、5月23日頃より「炭疽病」の発病リスクが高まっている。今後、入梅後の降雨で感染が拡大する可能性もあるため、予防防除が必要。



炭疽病（株元での発生）



病斑上の分生子

2 すいか炭疽病、つる枯病等の防除薬剤（例） R8.05.31 現在

収穫前日数	薬剤名：希釈倍率、（ ）内は薬剤の使用回数	適用病害
7日	ジマンダイセン水和剤：500倍（7）	つる枯・炭疽病
3日	ダコニール1000：700～1,000倍（5）	つる枯・炭疽病
前日	シグナムWDG：1,500倍（3）	つる枯・炭疽病
	ゲッター水和剤：1,500倍（5）	炭疽病
	Zボルドー：800倍（発病前～発病初期）※	疫病、（炭疽病）

※ Zボルドーは薬害軽減のため、薄い希釈倍率とする。野菜類で炭疽病に登録あり

注1) 降雨前の防除には固着性展着剤アビオンE、降雨後防除には浸透・付着性展着剤アプローチBI等の加用を検討

注2) ただし、アミスター20フロアブルを散布する場合は、薬害防止のため浸透性展着剤（アプローチBI、ニーズ等）を加用しない

3 日焼け果対策

- (1) 降雨続きで根が弱った後の強日射で、日焼け果が発生しやすくなる。
- (2) 排水溝切りや農道からの浸水防止等の排水対策（明きよ）を行う。
→ 降雨後の天候を予測し、ワラかけ、日焼け防止テープの設置を遅れずに実施する。

4 害虫防除

被害拡大後の防除では十分な効果が得られないため、発生初期の防除に努める。防除薬剤は、R8 すいか基幹防除（例）を参考にする。R7は6月下旬からハダニが発生。オオタバコガは、最初につる先や花に食害が見られ、成長にしたがい果皮をかじるため注意。



ハダニ発生株（葉色淡、つる伸び悪い）



葉裏のアブラムシ

5 令和8年度 珠洲の気象（正院アメダス、3～5月）

